



ひょう どう じゅん こ  
兵頭 順子 さん

●プロフィール

66歳。峰町櫛出身、佐賀在住。5人きょうだいの長女に生まれる。高校卒業後福岡へ。23歳で帰郷、結婚。1男2女をもうける。42歳から我流で人形作りをはじめ、福岡で個展も開催した。朝鮮通信使行列を描いた絵巻に感動を覚え、これを人形で再現したいと60歳から制作に取り掛かる。2020年までに500体の完成を目指す。9月にはソウルで開催された日韓外交正常化50周年記念行事に19体の朝鮮通信使人形が展示された。夫と息子の3人暮らし。兵頭さんの創作人形や制作への思いはブログ「対馬シーロード」に随時更新されている。

○人形を作るようになったきっかけは？

長女が大学の受験勉強のため夜中まで起きていたものから、私もそれに合わせて起きる間に、手遊びに人形を作り出したのが始まりです。もの作りは昔から好きでした。子どもが保育所に通っている時、おもちゃ箱の中に裸のセルロイド人形が入っていましたね。着せ替えの服を作ったこともありました。

○対馬では人形作りの材料の入手も難しかったのでは？

うちは自営の建材店ですから、芯に使う針金や木材などは手元がありました。でも、人形に着せる着物の布や小物は、やはり対馬では手に入りません。材料もさることながら、人形作りの先生を探しましたが巡り会えず、通信講座の道も無くて。それから創意工夫して我流で作ろう、と思って。私は、できないことはない、できないことがあるとは思わない性格なんです。

○仕事と創作活動のバランスは？

私は、専門の人形作家のように一体一体作る時間を取りませんでした。本業の仕事の5分や10分といった合間に、手を作ったり頭

を作ったりと部品工場のように作業をしていきます。仕事のメモを横目に、手元では人形を作っています。人形作りは仕事の続きですね。

○朝鮮通信使を創作の題材に選んだ思いとは？

日韓の間で行われていた交流の歴史の中で、天候急変で使節団が遭難し112人が亡くなるという出来事がありました。平和のために命がけて海を渡った彼らの思いや、朝鮮通信使の意味に感動したんです。通信使行列の様子を描いた絵巻を人形で再現し、その思いと共に子どもたちへ残したい。私が今、対馬にできることはこれだと思いました。それまでは童やきれいな着物を着飾る人形を作っていました。通信使への思いから男性の人形を作りだしました。60歳の時のことです。

○人形を拝見すると、それぞれが何かを語りだしそうな感じがします。

作る際には、人形に人格を持たせます。一体一体に物語があるように作ることを心がけています。たとえば、儒教を学ぶ人は学問しかしていない証拠として爪を伸ばしていたそうです。

逆に、爪の短い人は労働者を意味するとか。そういったことも人形に反映したいですね。

○通信使行列の完成には1絵巻500体の人形が必要だそうです。

頭の中に500体出来上がった夢をまず描きます。そうすると、人々の笑い声や馬の蹄の音にぎやかな楽器の音色が聞こえてくるようで、楽しくて仕方ありません。完成への目的を持つことが、現実につながります。動かないことには進みませんが。

○常に心も体も動いている、といった感じですね。

いくつになっても、自分がやりたいと思う時がスタートの時の努力が必要です。でも努力したら必ずできる、できないと思わずやってみることが大切です。何事も先を読むこと。自分をライバルとして、生き生きと生きていきたいです。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介します。このコーナー。峰町佐賀にお住まいの双須富子さんです。お楽しみに。